

# NICE

Numazu association for International Communications & Exchanges

Vol. 9

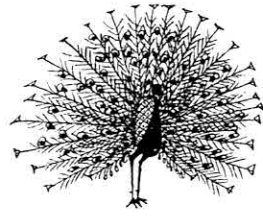
発行者 沼津国際交流協会  
(企画広報部会)

所在地 沼津市御幸町16番1号  
(事務局) 沼津市役所国際交流室内

☎0559-34-2529



# 英語&日本語



# スピーチコンテスト

国際理解教育部会は、1月30日の日曜日、第2回英語&日本語スピーチコンテストを市立図書館視聴覚ホールで開催しました。

本年度は英語でのスピーチに日本人7人、日本語でのスピーチにペルー、インド、中国など6か国9人の外国人が挑戦しました。

スピーチはそれぞれ自由なテーマでしたが、英語のスピーチでは海外旅行の思い出や感動した事、また環境問題、自然食、外国語の勉強の楽しさなど、多方面に及びました。

日本語によるスピーチでは、祖国と日本の文化・風俗習慣の違いや、お互いの交流の必要性、そして沼津に住んでの感想など、それぞれユーモアも交えて発表されました。



スピーチに聞き入る観客

聞いている人達にはどの発表も大変よくわかり、また有意義な内容でした。

審査の結果、次の方々が入賞されました。

来年はあなたもチャレンジしてみませんか？



出場者&審査員

## 英語の部

- 優勝 渡辺 保子さん
- 2位 今井友紀子さん
- 3位 大島 典子さん

## 日本語の部

- 優勝 杉村エニーさん(マレーシア)
- 2位 林 愛 萍さん(中国)
- 3位 兼城ミゲルさん(ペルー)



最年少のキーラ・バレンタインさん(オーストラリア)



カラマズー部会

# '93クリスマス パーティ



夜景を眼下に眺めながら、オーナメント  
に小林会長扮するサンタクロースも登場。

ビンゴゲーム・プレゼント交換・バイキ  
ング料理。飲んで食べて、話して笑って、  
楽しいパーティーを満喫しました。



沼津ホテルにて

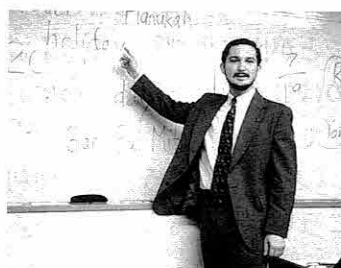
## 楽しい講演会をありがとう!

姉妹都市カラマズー出身の英語教師 Ethan Segal さんによる講演会が3回シリーズで行われました。講演はイーサンさんの目から見たアメリカの紹介や日本人への感想、またカラマズーのビデオやピクショナリーというゲームなど盛り沢山で、多くの方がリスニングの練習とともに講演を楽しみました。

### 《イーサンさんからのメッセージ》

Thank you to the many people who came to my talks. They really were not mine, though; they were yours, held to give people in Numazu a chance to test or refresh their English skills. I hope you enjoyed listening, and will continue to improve your English, I also hope you will not be afraid to ask questions or give comments at such talks as I said, I don't like one-way education. Only by sharing our ideas can we really learn and understand.

Ethan Segal



## いっしょに考えてみませんか？

### 「ふつうの話」

杉村 エニー（日本語の部優勝）

今回のタイトルですが、皆さんは何かどこにでもあるつまらない話かな、と想像されていませんか？ 今日皆さんも私と一緒に『ふつう』という言葉について、ちょっと考えてみてください。

日本人同士の日常会話で『ふつう』という言葉はよく使われています。最初、この意味の理解にとっても苦しみました。違う言葉を当てはめてみれば理解し易いのですが、日本人は好んで『ふつう』という言葉を使うようですね。

では、『ふつう』とはどういう意味でしょう？ 例えば、いつもの・平凡な・並の・ありふれた・つまらない・平均的な・世間並み・標準な・一般的など色々ありますね。日本人の友達と話をしていると、「あの人は『ふつう』じゃない」とか、「私は『ふつう』よ」というような言い方をよく耳にします。「あの人は『ふつう』じゃない」というのは、「あの人はありふれた人ではない」という意味かなと思うと、本当は「あの人は変だ」という意味です。また「私は『ふつう』よ」というのは「私は標準的、または一般的」ということで、「まわりの人と同じ」という意味です。でも人から「あなたは『ふつう』よ」と言われると、「あなたは平凡よ」と解釈して気分を害する人もいます。また、友達が「うちの主人は『ふつう』だけどエニーさんのご主人はどう？」とよく聞きます。本当は色々なところが『ふつう』じゃないけど、いちいち説明していると時間がかかるので、つい簡単な答えを選んでしまい、「ええ、うちの主人も『ふつう』よ」と答えてしまいます。でも誤解しないでください。うちの主人はアブノーマルというわけではないのです。

ところで買い物の時ビックリしましたが、『ふつうサイズ』というのは『ミディアムサイズ』のことなんですね。知りませんでした。

日本の言葉で『十人十色』という言葉があります。では十人の中の一人が「私は『ふつう』です」と言ったら、それはどういう意味でしょう？ 十人いるそれぞれ違う個性の中で、何が基準となって『ふつう』となるのでしょうか？ この『ふつう』という言葉の中に、なんとなく日本人の本質が見えてくるような気がします。

新聞にもよく日本人の「中流意識」のことが書いてあります。その中流意識から『ふつう』という言葉がくるのかな、とも思われます。

また、日本人の心の中には、人と違う考え方を口にしたたり行動することは良くないという気持ちがあるのではないのでしょうか？ 思っていることをハッキリ言うよりは、意味を曖昧にして、余計なことを言わないようにしているのでしょうか？ 私は5か国語を話すことが出来ますが、その中でもやはり、曖昧な言葉を日常会話の中で一番多く使っているのは日本語だと思われれます。もう少し意味が曖昧でない、適切な言葉を使ってみてはいかがでしょうか？

『ふつう』という言葉は便利な反面、なにか色々と考えさせられる言葉だと思いますが、こういう私の考え方って『ふつう』じゃないのかな？

(一部省略)

## NATURAL FOOD IS WONDERFUL 渡辺 保子 (英語の部優勝)

I have a post-card here now, which came to me at the end of last year. It came from a mother whose little daughter, Yuka-chan, has blood cancer, *vetraleeze*. She has been sick since she was a baby. About eight years ago, she belonged to the same kindergarten as my elder son.

The doctor said, "We cannot do anything more for her with modern medicine, so now we must only depend upon her natural healing power."

Then one day I asked her mother, "Do you want to improve Yuka-chan's healing power? It would be good to have unpolished rice, Genmai." This was my advice. Of course, I didn't have confidence in her being cured in the last stage of cancer, because the doctor had given up. But I thought that she would gain immunity against the cancer and live longer if she ate good food which can purify the blood, and take the necessary nourishment in balance.

I lent Yuka-chan's parents some books which I had read. After reading them, at last they realized that it was the very way for her to heal, and they courageously stopped using the anti-cancer drugs and changed their way of eating to Genmai and natural foods.

I began to teach her mother, who had worried about cooking because the cooking methods were different. In one or two months, gradually we could see Yuka-chan building up her physical strength. It looked like a real miracle.

Now some years have passed. And the other day they heard from a famous doctor in Japan who had been treating Yuka-chan. She said, "Your daughter is the only child living until the age of 15 in the world!"

The doctor said that children with the blood cancer, *vetraleeze*, died at about three years old and there were lots of them in America. I knew that those parents in America feared the illness and they wanted to know why Yuka-chan had done so well. They had heard the good news that Yuka-chan in Japan had lived a long time.

I really felt happy in my heart to know this story because I have been watching Yuka-chan become cute and healthy since I taught her family about Genmai and natural foods, and I believed that it was natural for her to get better. But now I recognize that it was a very special case and many children with this cancer in America are dying even now, in spite of their having the possibility of getting better like Yuka-chan.

When I talked with Yuka-chan's mother recently, I said to her, "Shouldn't you tell this true story to people around the world who have been suffering from the same disease? How about corresponding with American parents? And please go to help them in America, if necessary. I will also help you as much as possible." All of you, can you believe this story?

(一部省略)

中国のお正月「春節」を祝う!!

岳陽部会は2月11日(金)、中国のお正月を祝う「第2回春節祭」をピアオオトミで開催しました。中国人と日本人、他の外国人を含め、約200名の人たちで賑わいました。



日本人による中国語でのスピーチ、中国人による日本語のスピーチのほか、文化交流として日本の琴や華道体験、中国の胡弓の演奏、カラオケ大会などで盛り上がりました。

特に水餃子の実演は中国のムード満点で、熱々のスープがとても美味しく大好評でした。



「NICE」総会にご参加ください!!

平成6年度の沼津国際交流協会総会が下記の日程で開催されます。総会後は、おいしい料理や飲み物を楽しみながら語り合うパーティーを計画しております。ぜひ、多くの会員の皆様お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

- 日 時 平成6年5月20日(金)18:30~
- 場 所 ブケ東海
- 内 容 総 会 18:30~  
パーティー 19:30~

※詳しくは3月末日発行のザ・NICE増刊号と共に会員の皆様にお知らせします。

